

JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	八木 ゆかり	学校名	新潟 都・道・府・ 県 糸魚川市立能生中学校
担当教科等	国語科	対象学年（人数）	1 学年（5 9 名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2 0 2 2 年 1 1 月（6 時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：国語科							
2. 単元(活動)名：価値を見いだす「『不便』の価値を見つめ直す」川上浩司							
<p>3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標</p> <p>授業テーマ：「発想を転換し、身近なものの新しい側面に光を当てる」</p> <p>単元目標：一般的な考えを別の視点で捉え直し、新たな価値を生み出す。</p> <p>関連する学習指導要領上の目標：第1学年目標（2）筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。</p>							
4. 単元の評価 規準	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;">①知識及び技能</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・意見と根拠の関係に着目して、必要な情報を取り出し、整理している。(2)ア ・情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">②思考力、判断力、表現力等</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報に着目して筆者の主張を要約し、内容を解釈している。C(1)ウ ・文章から理解したことに基づき、自分の考えを確かなものにしていく。C(1)オ ・根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。B(1)ウ </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">③学びに向かう力、人間性等</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に必要な情報に着目し文章の内容を理解したり、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしていたりしている。 </td> </tr> </table>	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・意見と根拠の関係に着目して、必要な情報を取り出し、整理している。(2)ア ・情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ 	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報に着目して筆者の主張を要約し、内容を解釈している。C(1)ウ ・文章から理解したことに基づき、自分の考えを確かなものにしていく。C(1)オ ・根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。B(1)ウ 	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に必要な情報に着目し文章の内容を理解したり、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしていたりしている。
①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・意見と根拠の関係に着目して、必要な情報を取り出し、整理している。(2)ア ・情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ 						
②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報に着目して筆者の主張を要約し、内容を解釈している。C(1)ウ ・文章から理解したことに基づき、自分の考えを確かなものにしていく。C(1)オ ・根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。B(1)ウ 						
③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に必要な情報に着目し文章の内容を理解したり、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしていたりしている。 						
<p>5. 単元設定の理由・単元の意義</p> <p>(児童／生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由】</p> <p>生徒はこれまで説明文を読む学習において、段落の役割（問い、答え、具体例、まとめ等）と段落どうしの関係に着目して、文章の構成（序論・本論・結論）を捉える学習を行った。2 学期は、意見と根拠を読み分け、これらの関係を踏まえながら筆者の考えを読み取る力の育成を目指している。また、説得力を高めるために根拠を明確にして自分の意見を書く力も身につけさせたい。そこで今回は、具体的な事例を根拠として示す筆者の論の進め方に学び、根拠となる事例が自分の意見を支えるものなのかを適切に判断し、説得力のある文章にまとめる力が身につくことを期待する。</p> <p>【単元の意義】</p> <p>筆者は固定観念に疑問をもち、視点を変えてみることで、新たな価値を見出せる可能性について論じており、多角的・多面的な視点を養うのに適した単元であるといえる。「不便益（不便の価値）」という筆者の考え方を指標とし、一般的な考えを別の視点で捉え直し、価値基準を明確にしなが、評価したり判断したりすることで新たな価値を生み出そうとする力を育成する単元としたい。</p> <p>【児童／生徒観】</p> <p>本校がある新潟県糸魚川市は人口減少が著しく、少子高齢化が顕著である。さらに、高校卒業後には約半数が市外に転出してしまおうという若者の流出も課題である。こう</p>						

した地域に住む子どもたちだからこそ、地域の課題に目を向け、主体的に課題解決に向かう態度を身に付けてほしいと考えている。そこで、一見課題だと思えることも、視点を変えてみると、必ずしもそうではないという気づきを学びにつなげていきたい。また、書くことに苦手意識をもっている生徒が多く、筆者の論の進め方に学ぶことで、説得力のあるわかりやすい文章を書く力が身につくことも期待する。

【指導観】

本単元では、国語科で育成を目指す資質・能力を踏まえ、次の3つの学習過程に重点を置いた。まずは、課題について自分で考える時間を設ける。これにより、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。次に、グループで意見交流する時間を設ける。自分の考えを深めるために、様々な視点から考えを再構築する学習過程が必要であり、そのためのグループ学習である。最後に、再構築した自分の考えを他者に伝える。学習の定着を図るために必要なアウトプットを、本単元では「書くこと」で行う。

6. 単元計画（全6時間）

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
	講演「持続可能な社会のために」	地元企業の取組を知り、多様な価値観に触れる。	・株式会社アオの取組に関する講演を聞き、持続可能な社会のために必要なことについて考える。	・株式会社アオ ・いといがわコットンプロジェクト
1	「不利益」の定義	文章の内容を捉え、「不利益」の定義を確かめる。	・日常生活で「不便」だと感じる物事を想起させ、『「不便は悪いこと』という価値観』が一般的であることを確認する。 ・本文を通読し、段落番号を振る。 ・「不利益」の定義が書かれている部分に線を引き、内容を簡潔に付箋紙にまとめる。「不便」の定義についても同じく行う。	・国語教科書 ・付箋紙 ・Google Forms
2	文章構成の確認	段落を序論・本論・結論に分け、各まとまりの中心となる文に着目する。	・文章全体をグループで通読し、各段落の中心となる文を選び、線を引く。 ・序論・本論・結論に分ける。 ・グループで意見交流し、序論と結論で必要となる情報を絞り込み、内容を簡潔に付箋紙にまとめる。	・国語教科書 ・付箋紙 ・Google Forms
3	「不利益」の事例	「不便のよい面」と「便利の悪い面」について考え、筆者の主張を読み取る。	・本論から「不利益」の具体例を3つ確認し、内容を簡潔に付箋紙にまとめる。 ・説明する型（○は△だが、□ことがよい。）を示し、具体例の1つを説明する文を書く。 ・本文中から「便利の悪い面」の事例を探し、説明する文を書く。書いたものをもとにグループで説明し合う。	・国語教科書 ・付箋紙 ・Google Forms
4	筆者の考えを要約する	この文章を読んだことのない人に説明するつもりで、筆者の考えを要約する。	・付箋紙の内容を結び付けて、200字程度で要約する。 ・筆者の主張に賛成・反対どちらの立場か、自分の考えを付箋紙に書く。	・国語教科書 ・ワークシート ・付箋紙 ・Google Forms
5 本時	発想を転換し、身近なものの新しい側面に光を当てる	身近な物事を「便利」と「不便」の両側面から捉え、見落とししていた価値に気づく。	・棚田を例に物事には「よい面」と「悪い面」があることを確認する。 ・「持続可能な社会に必要なものは何か？」という問いについてジグソー法を用いて考える。【エキスパート活動】	・国語教科書 ・ワークシート ・付箋紙 ・Google Forms ・沢尻の棚田、能生の棚田
6	自分の意見をまとめる	立場や根拠を明確にして、筆者の主張に対する	・「持続可能な社会に必要なものは何か？」という問いについてジグソー法	・いといがわコットンプロジェクト ・マリプロジェクト

		自分の意見をまとめる。	を用いて考える。【ジグソー活動】 <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、筆者の主張に対する自分の意見を確認する。 自分の意見を次の条件で文章にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 賛成か反対か、立場を明確にする。 (2) 筆者の文章の何に対する意見であるかを、要約や引用で明確に示す。要約や引用と自分の意見は分けて書く。 (3) 自分の考えの根拠となる事例を挙げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 糸魚川ジオパーク マリンドリーム能生
--	--	-------------	---	---

7. 本時の展開（5時間目）

本時のねらい：

身近な物事を「便利」と「不便」の両側面から捉え、見落としていた価値に気づく。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	・前時の振り返り	・文章の要約を読み返し、筆者の主張を再確認させる。	
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> 既習の棚田を例に、物事には複数の価値があることを想起させ、「よい面」と「悪い面」の両方があることを確認する。 「持続可能な社会に必要なものは何か？」という問いについてジグソー法を用いて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ① 次の3つについて、持続可能な社会に必要なか否か自分の考えをノートに書く。(5分) <ul style="list-style-type: none"> A: ファストファッション B: プラスチック製品 C: 観光化 ② 3つのエキスパートグループに分かれ、資料を読み、「よい面」と「悪い面」を付箋に書き出す。(25分) <ul style="list-style-type: none"> 各自、初めの考えとは別の視点で捉え直した結果、気づいた新たな価値を説明する文を説明する型(○は△だが、□ことがよい。)を用いて書く。(5分) 	<ul style="list-style-type: none"> 「便利・安価・活気がある＝よい面」「不便・高価・活気がない＝悪い面」という一般的な価値観からまずは捉えさせる。 一般的な価値観とは別の見方で捉え直させる。 消費者から生産者など、立場を変えて捉え直させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 棚田 いといがわコットンプロジェクト マリプロジェクト 糸魚川ジオパーク マリンドリーム能生 ワークシート 付箋紙 Google Forms
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を踏まえ、「持続可能な社会に必要なものは何か？」という問いについて、自分の考えを付箋紙に書く。 Google Formsに本時の振り返りを入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が指摘している固定観念にとらわれることで新たな価値を見落とす危険性を想起させる。 	

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- | | |
|---------------|-------------------|
| ①知識及び技能 | 授業中の観察、ワークシート、ノート |
| ②思考力、判断力、表現力等 | 授業中の観察、ワークシート、ノート |
| ③学びに向かう力、人間性等 | 授業中の観察、振り返り |

9. 学習方法及び外部との連携

教科横断的な学習の実践

既習事項や体験と本単元を結び付けることでより深い学びを引き出し、多角的・多面的な視点の育成につながる考えた。

【関連付けた教科と題材】

総合的な学習(ジオエリア学習^{*1}/職場訪問^{*2}/いといがわコットンプロジェクト^{*3}) 道徳(自然

愛護) 技術・家庭科 (衣服の活用と選び方/材料の性質)

※1 糸魚川ジオパークの「神道山エリア」を散策し、能生川の水循環や防災について学ぶ活動。

※2 道の駅「マリンドリーム能生」で働く人にインタビューし、働くことについて学ぶ活動。

※3 糸魚川でサステイナブルファッションに取り組むブランド「ao」(株式会社アオ)が行う糸魚川に生まれた赤ちゃんにベビー肌着をプレゼントする活動。オーガニックコットンの栽培で協力。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・ JICA エッセイコンテストへの応募
- ・ 図書室内に SDGs コーナーを設置

【自己評価】

11. 苦勞した点

・ジグソー法の時間配分

エキスパート活動とジグソー活動の両方を1時間(50分)の授業で行うのは難しいと考え、2時間に分けた。そこで、2つの活動のつながりを取り戻すためにジグソー活動の導入で前時のエキスパート活動の振り返りを丁寧に設けた。その結果、情報収集するエキスパート活動に多くの時間を費やしてしまい、考えを共有するジグソー活動に十分な時間を割くことができず、担当した学習内容以外への生徒の関心が薄かった。

・エキスパート活動で配布する資料の工夫

限られた時間でより理解を深める情報収集につながるだけでなく、多角的・多面的な視点を養うという単元の性質上、生徒から多様な考えを引き出すきっかけとなる資料が必要であり、その提示に苦勞した。

12. 改善点

・学習内容の焦点化

「持続可能な社会に必要なものは何か?」という学習課題に対して、1回目の実践では次の3つの学習内容を提示した。

A: ファストファッション B: プラスチック製品 C: 観光化

しかし、具体的にイメージできずに悩んでいる生徒の様子が見られたので、2回目の実践では次のように提示した。

A: 選ぶなら コットン製品 or ポリエステル(化学繊維)製品

B: 使うなら エコバック or レジ袋

C: 住むなら 観光地 or 住宅地

焦点化し、具体的な選択肢を示したことで、生徒は自分の考えを明確に持つことができるようになった。初めに自分の考えを明確にすることで、エキスパート活動やジグソー活動を通して、生徒は他者との考えの違いや、自分の考えの変容に気づくことができた。

・配布資料の見直し

1回目の実践では、生徒から多様な考えを引き出すことを重視し、エキスパート活動で配布する資料を関連する複数のグラフにした。(資料1)

国語『『不便』の価値を見つめ直す』資料B 1年 組 番 名前

問い

持続可能な社会に必要な素材はどんなものでしょうか?
技術の授業で学んだことや次の資料をもとにチームで話し合い、気づいたことを出し合ひましょう。

資料

品名	分解年数
吸い殻	1.5-10年
レジ袋	20年
発泡スチロール製カップ	50年
アルミ缶	200年
ペットボトル	400年
おむつ	400年
釣り糸	600年

出典: NOAA / Woods Hole Sea Grant

海洋ごみが分解されて細くなる年数。
上記の内、アルミ缶以外は全てプラスチックが主成分の「海洋プラスチックごみ」

(資料1)1回目の実践でプラスチック製品について考えるグループで使用した資料の一部

しかし、生徒の中にグラフから「よい面」「悪い面」を読み取ることに苦戦している様子が見られた。また、グラフの読み取りの手がかりとしてQRコードを添えたことでインターネットでの情報収集に集中してしまい、グループ内の対話が少ないようにも感じた。

そこで、2回目の実践では「よい面」「悪い面」の両方が分かりやすく読み取れる資料を提示した。**(資料2)** インターネットでの情報収集が不要になったことでグループ内での対話が生まれ、生徒が他者や自分の考えを客観的に捉えることにつながった。

国語『「不便」の価値を見つめ直す』資料B 1年 組 番 名前

資料

レジ袋の有料化もあり、多くの人が環境のことを考えてエコバッグを利用するようになりました。エコバッグはデザインも様々で、素敵なものを見つけるとつい買いたくなります。また、商品やお店のキャンペーンでもらうこともあります。だから、エコバッグをたくさん持っている人も多いことでしょう。

「ライフサイクルアセスメント(LCA)」という手法があります。LCAとは、材料の調達から製造、流通、廃棄までの全過程(ライフサイクル)における環境負荷を総合して評価する手法です。

これによると、1枚当たりの環境負荷が最も少ないのはレジ袋です。さらに、そのレジ袋を1回再利用すると新しく1枚レジ袋を作る時の環境負荷をカバーできます。一般的に使われているポリエステルのエコバッグは35回使って、ようやく環境負荷をレジ袋よりおさえられます。オーガニックコットンバッグの場合は、20,000回利用しなければ環境に良いとは言えないというデンマークの研究結果もあります。

(資料2)見直し後、2回目の実践で使用した資料

13. 成果が出た点

- ・本単元の資料を既習事項や体験と結びつけながら読み取ろうとする姿や、インターネットで積極的に情報収集する姿など、主体的な学びの姿が多くみられた。
- ・様々な立場や状況を想定して考えることで、一般的な価値観とは異なる価値を見出し、考えが変化する生徒もいた。
- ・1回目の実践を受けて、資料の見直しや視点の焦点化といった改善を行った2回目の実践では、より活発に意見交換する生徒の様子が見られた。

14. 学びの軌跡

(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

・エキスパート活動の様子(実践1回目)



タブレットで情報収集を積極的に行う様子が見られた。集めた情報を「よい面」「悪い面」の両側面から考え、意見を付箋に書き出した。視点を変えるためのヒントとしてSDGsカードを使用している生徒も見られた。一方で、情報収集に集中してしまい、グループ内での対話が少ないようにも感じられた。

・単元後のスピーチ発表

単元後には、本単元の最後にまとめた自分の意見を発表するというスピーチを行った。このスピーチは各学期に行っているスピーチテストとして位置づけた。スピーチのテーマは「持続可能な社会のために必要なのは何か?」とし、本単元の学習過程で得た「新たな視点」「新たな価値」を必ず加えるものとした。

筆者の「これまでの常識とは異なる別の視点をもつことで、世界をもっと多様に見ることができるようになるはずだ」という記述を根拠に、多くの生徒が「持続可能な社会のために必要なもの」として「多様な視点」を挙げていた。また、「経済と環境のバランス」「便利と不便の両立」「生活を工夫してバランスよく活用」など、「バランス」「両立」といったキーワードも目立った。

	<p style="text-align: center;">(資料3)生徒のスピーチ原稿の一部</p> <p>僕が目にした不便益は、コットンについてです。コットンにはオーガニックコットンと通常のコットンがあります。農薬を使わないオーガニックコットンは育ちにくいという点では不便ですが、環境によく、安心して収穫できるという点では、便利です。一方、農薬を使用する通常のコットンはしっかり育つという点では便利ですが、農薬を使うため環境にも悪く、収穫時に最悪の場合命を落とす人も数多くいます。</p> <p>不便だからこそ得られるよさがあることを認識し、それを活かして新しいデザインを作り出すのが「不便益」の考えです。このことを活かして世界をもっと多様に見て欲しいです。</p> <p>私は、プラスチック製品は環境に悪いため、買い物の際にはレジ袋ではなく、エコバッグを使用するように心がけていましたが、エコバッグはレジ袋よりも1枚当たりの環境負荷が大きく、ポリエステルのエコバッグの場合は35回以上、オーガニックコットンの場合は2万回以上も使用しないと環境負荷をレジ袋よりも抑えることができないと知り、レジ袋を使用する方が環境に良いことがわかりました。</p> <p>さらに、1つのレジ袋を再利用することで、より環境負荷削減に繋がると思い、エコバッグとレジ袋に対する考え方が変わりました。</p> <p>このことから、便利を追求し続けるよりも、少し立ち止まって不便にもメリットがないのか考えてみると、意外にも不便の方が良いかもしれないと考えが変わるかもしれません。そうする事で、自分にも環境にも良いことが増え、持続可能な社会に繋がっていくと考えます。</p> <p>外国の人が日本に旅行に来た時の満足度のアンケートをとったところ、90%ほどは、「満足」または「大満足」という意見ですが、10%ほどの人は「良くない」という意見です。わずか10%とはいえ、何か不便な面や問題のある面があるのだと思います。そこを改善せずに、答えてくれた10%の人たちが、日本に良い印象を持ってくれるでしょうか。不便な面に日本をよりよくするヒントがあると思います。</p> <p>持続可能な社会を作っていくためには、「不便は悪いこと」「便利はいいこと」という固定観念にとらわれ便利な方ばかりに注目せず、不便にも目を向けて生活していくことが大切だと思います。</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>「自ら考え、伝え合い、向上する生徒の育成」という本校の研究主題の観点から対話を重視し、本單元にはジグソー法を用いた。言葉で伝えようと努力する姿がみられた一方で、言葉ではなくワークシートの写し合いに頼る姿もあった。思考を深めるためにも対話は重要であり、文字ではなく言葉で伝え合う「対話力」の強化が今後の課題だと感じた。</p> <p>また、「持続可能な社会の担い手」となる子どもたちには「地域の課題に目を向け主体的に課題解決に向かう態度」を身に付けてほしいと願っている。課題に気づき、自ら解決に向けて行動を起こそうとする子どもたちが次に必要となるのは「他者と協働する力」である。そして、子どもの協働性を育むには、やはり「対話力」の強化が不可欠である。</p> <p>多角的・多面的な視点の育成を目指した今回の授業実践で、「対話力」の重要性に改めて気づき、「対話力」の強化が今後の課題であると感じた。この気づきをこれからの実践に活かしていきたい。</p>

使用した教科書・単元名：

川上浩司『『不便』の価値を見つめ直す』、『国語1』光村図書

参考資料：

- ・WWF ジャパン <https://www.wwf.or.jp/>
- ・令和2年度糸魚川市観光統計

※ 過去の研修参加教員による実践事例と使用教材、ワークシートなどをJICA ホームページに掲載しています。是非ご覧ください！

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>